

2021年1月28日

January Indicator Trifecta Update

1月トリフェクタ指数のアップデート

S&P 500 January Early Indicator Trifecta — 3 Positive						
New Year	SC Rally	FFD	JB	Feb	Last 11 Mon	Full Year
1950	1.3%	2.0%	1.7%	1.0%	19.7%	21.8%
1951	3.1%	2.3%	6.1%	0.6%	9.7%	16.5%
1952	1.4%	0.6%	1.6%	-3.6%	10.1%	11.8%
1954	1.7%	0.5%	5.1%	0.3%	38.0%	45.0%
1958	3.5%	2.5%	4.3%	-2.1%	32.4%	38.1%
1959	3.6%	0.3%	0.4%	-0.02%	8.1%	8.5%
1961	1.7%	1.2%	6.3%	2.7%	15.8%	23.1%
1963	1.7%	2.6%	4.9%	-2.9%	13.3%	18.9%
1964	2.3%	1.3%	2.7%	1.0%	10.0%	13.0%
1965	0.6%	0.7%	3.3%	-0.1%	5.6%	9.1%
1966	0.1%	0.8%	0.5%	-1.8%	-13.5%	-13.1%
1971	1.9%	0.0%	4.0%	0.9%	6.5%	10.8%
1972	1.3%	1.4%	1.8%	2.5%	13.6%	15.6%
1975	7.2%	2.2%	12.3%	6.0%	17.2%	31.5%
1976	4.3%	4.9%	11.8%	-1.1%	6.5%	19.1%
1979	3.3%	2.8%	4.0%	-3.7%	8.0%	12.3%
1983	1.2%	3.2%	3.3%	1.9%	13.5%	17.3%
1987	2.4%	6.2%	13.2%	3.7%	-9.9%	2.0%
1989	0.9%	1.2%	7.1%	-2.9%	18.8%	27.3%
1995	0.2%	0.3%	2.4%	3.6%	30.9%	34.1%
1996	1.8%	0.4%	3.3%	0.7%	16.5%	20.3%
1997	0.1%	1.0%	6.1%	0.6%	23.4%	31.0%
1999	1.3%	3.7%	4.1%	-3.2%	14.8%	19.5%
2004	2.4%	1.8%	1.7%	1.2%	7.1%	9.0%
2006	0.4%	3.4%	2.5%	0.05%	10.8%	13.6%
2011	1.1%	1.1%	2.3%	3.2%	-2.2%	-0.003%
2012	1.9%	1.8%	4.2%	4.1%	8.7%	13.4%
2013	2.0%	2.2%	4.8%	1.1%	23.4%	29.6%
2017	0.4%	1.3%	1.8%	3.7%	17.3%	19.4%
2018	1.1%	2.8%	5.6%	-3.9%	-11.2%	-6.2%
2019	1.3%	2.7%	7.9%	3.0%	19.5%	28.9%
2021	1.0%	1.8%	2.5%			
Average:				0.5%	12.3%	17.5%
# Up:				20	27	28
# Down:				11	4	3

* As of Close January 26, 2021 Source: StockTradersAlmanac.com. All rights reserved.

今朝は未来が暗い印象を受けたが、1月のトリフェクタ(3連単)指数はポジティブなまま。変更と激変に直面しているマーケットがある程度、回復でき、1月の上げを保つことができれば、それは今年の良い兆候となる。

ワクチンの展開がいくつかの障害物にぶつかっている間、新型コロナウイルスは地球と市場を掴み続けている。ウォール街はまた、新たに民主党に制御された議会と別の弾劾で、全く異なる大統領と政権に再調整しはじめた。失望的な収益と長引く経済的な懸念もあり、今朝の株価は不安定な状況となった。

サンタクロースラリー(SCR)は、1月の幕開けとなり、1月のトリフェクタ(3連)は、ファーストファイブデイ(FFD)の早期警報システムがポジティブな値を示したことで、連続でプラスの結果となった。月末の1月バロメーター(JB)がポジティブな値を示すと、1月のトリフェクタの条件が満たされる。最良の場合、最も強気のシナリオは、SCR、FFD、JBの3つの指標がすべてプラスになった場合である(上表)。

1950年以降、過去31回のトリフェクタが発生している、S&P500はその後の11ヶ月間に87.1%、通年では90.3%の確率で上昇している。しかし、1月のトリフェクタは、その年がベアや修正のない年になることを保証するものではない。上表、グレーでかこんだ「今後の11ヶ月間」の4つのマイナス年のうち、1966年、1987年、2011年は短期の弱気相場を経験している(2011年、S&P500のピークからボトムまでは-19.4%)。2018年、S&P500は9月の高値付近から12月の安値付近までの期間で19.8%下げている。

仮に、S&P500が今月マイナスで終わったとして、次の11ヶ月と通年の見通しは良好なままである。1950年以降、11回(直近では2020年)、SCRとFFDがともにプラス(JBはマイナス)となったうち、次の11ヶ月間は81.8%、通年では72.7%の確率で、それぞれ8.2%、4.1%の上昇となっている。

ポジティブなSCRとFFDは心強いもので、1月のJBが月末に報告されれば、さらに明確になる。1月のJBがポジティブであれば、2021年通年の明るい見通しは確実に高まる。また、12月の安値インディケーター(2020年12月1日のダウの12月ひけ最安値、29823.92)にも注意が必要である。